

会議録：「第6回恵那市産業振興ビジョン検討部会（工業部会）」

日時：平成29年11月27日（月曜日）10：00～

場所：恵那市役所会議棟中会議室A・B

参加者：別紙参照

1. 開会

2. 働きやすい環境づくり

- 事務局 「これまでの議論の中で、人材の確保を中心にビジョンの方向性が見えてきた。回答いただいたアンケート結果を踏まえて、今回の検討部会では具体的なビジョンについて議論を進めていきたい。
- 前回の検討部会で、人材確保について対象者別の課題やその対応策を明確にしていくため、アンケートの記載をお願いした。アンケートの回答について簡単に紹介をする。

【現状と課題】

- ・新入社員については「企業イメージの向上とPR方法の検討が必要」や「絶対数の不足」等の意見があった。
- ・中途社員については「具体的な能力を保有した人材の募集」や「スキルの有無」、「ハローワークの活用」等の意見があった。

【課題解決への方向性と処方箋】

- ・「大学、研究所等との交流による知名度の向上」や「魅力ある企業の創出」、「会社だけではなく社員にとっても良い仕事、会社」という意見があった。

【対象者別具体策】

- ・進入社員では「大学教授による紹介」や「学校との連携を蜜に」、「企業説明会の開催」等の意見があった。
- ・中途社員については、「研究所との交流」や「離職率の高い若年層の採用」、「Uターンの推進」等の意見があった。
- ・パート、シニア、外国人については、「ワークシェアが出来る様な作業工程の細分化の検討」という意見があった。

次ページの表は、委員の皆様からいただいた回答からキーワードを抜き出し、対象者ごとの想定される具体策を示した。

- ・進入社員については、「産学官の連携を検討」。現在恵那市では産学官の連携は行なっていない。ものづくりや人材についての連携の検討を

進めるとしている。

- ・「高校の専門事業等に講師を派遣」
 - ・情報発信では「学生目線での情報の発信」。企業側が出したい情報ではなく学生が何を欲しがっているのか。学生は5年後の自分の姿が見えるかどうかに重きを置く（キャリアアップ）。
 - ・「企業の魅力の発信（手法、ツール）」。対象者ごとにどんな内容をどのように発信するか。
 - ・「恵那暮らしの魅力発信」。都会との違いを見える形で発信する。
 - ・魅力の創造では「企業塾の開催」。新商品、サービスの開発等の支援を行なうもので、単発ではなく通年で支援するもの。
 - ・労働人口の減少ではIoTの導入の支援を行い業務効率の向上を図る。
 - ・働きやすい職場環境では「ワークライフバランスの推進」
 - ・人材育成では、「研修制度の検討」を行なう。
 - ・中途社員では、新入社員と違うところで、「UIJターンの推進」。恵那くらしビジネスサポートセンターで推進を図っていく。
 - ・「ターゲットを明確にした求人情報の発信」。ターゲットごとの情報の発信の仕方を検討。対象者別のパンフレットを作ることも考えられる。
 - ・パート・シニア・外国人では「女性・シルバーの再就職支援」や「日本語教室の開催支援」などが考えられる。
- ここまでで意見や質問は何かないでしょうか。」

○三輪 「魅力の発信について、学生が企業を選ぶ時は給与だけではない。給与では都会の大企業には敵わない。いかにその仕事の「やりがい」を発信していくかが重要。仕事の意味、世の中にどう貢献しているのか、どういった物に使われて、その製品がどのように活用されているのか。その「やりがい」を上手に発信していかないと、近隣に商業施設が出来れば人が取られてしまう。この地域でもリニア駅が出来れば、商業施設も増えるため、近い将来はもっと人材確保が困難になってくるため、魅力を発信していくことは重要な意味を持つ。

人手不足は全国的な問題。終身雇用でなくなり、人材の流動化が進んでいる。流動化を前提に人材確保策を考えていかなければならない。その中でワークシェアの仕組みを考えるのは良いことだと思う。人に仕事を付ける体制から仕事に人を付ける体制を検討していく。

これだけやるべきことが出てきたのは良いこと。この先、会議所や商工会がこの内容を受け止めてしっかり進めていけば、ビジョンを確実に実行していけると思う。」

○事務局 「今まで行政は働くという切り口でここまで議論を行ってきたことはない。人材育成の部分で研修制度の検討というものがあるが、現在も会議所、商工会でも色々やってきていると思う。恵那くらしビジネスサポートセンターでも研修も考えている。ばらばらにならないように体系的に進めていきたい。企業単体で研修を行なうことがなかなか難しい、上手くいかないのであれば、市として研修を体系的に実施することも良いのではないかと考えている。」

○委員の主な意見

- ・ 会議所や商工会では、**小売、サービス業の研修**を中心にやっている。工業関係はそれぞれの企業で対応しており、商工会としては就労規則の作成の手伝い等の環境整備と教育を中心にやっている。**人材を採るための研修は全体には行っていない**。個別の指導が大半。
- ・ 経営発達支援計画の様に、個々の相談に乗っていくというスタンスに変わりつつある。
- ・ ある程度の規模の製造業の会社になると、商工会より人材確保についての知識を持っている。手出しがなかなかできない。
- ・ 企業側としてどう採用していくか、どう人を呼ぶかという中で、**企業の魅力が重要**。給与については同業他社の状況を見ながら設定をしている。給与はひとつの条件ではあるが、給与だけで動く人はまたお金で動いて行ってしまう。定着には繋がらない。いかに**やりがい**を伝えていくことが大切だと思う。
- ・ 自社製品が世の中のどのような場面で使われているか社員に伝えるようにしている。面白い情報を展開していくことに注力している。ただし守秘義務があるため、**HP 上では出せない**。高校生見学会とかがあればオフレコで伝えている。来た人に対しては情報を出せる。**関市では市民に対して企業見学**をやっている。そういったものがあれば良いのかなと思う。それは親に対しても情報公開ができるので良いことだと思う。
- ・ 恵那に残って働いている人では、長男であるか家業を継いでいるかどちらが多いが、知り合いや社員の中ではこういう境遇ではなくても、**恵那が好きで残っている人はいる**。そういう人たちのデータを取って分析すれば**恵那の魅力の再発見**ができるのではないかと思う。**行政でアンケート**を取ってもらうと原石から新たな魅力が発見できるかもしれない。

○事務局 「市内企業の PR、イメージアップを行なって行きたいと考えている。恵那市雇用対策協議会の事業の中でも行っている。ただし市で出来ることは限られている。企業の HP に飛んでいくような仕組みを作ることはできると思うが、企業の HP でも出せない情報もある。**どうやって企業の PR をするのかが難しい**。市では初めての試みとして、保護者と高校教諭を対象にした企業見学ツアーを開催した。初めてということで保護者の参加者は少なかったが、先生は集まってくれた。**高校生だと親の意見は大きい**。市民が恵那市の企業のことをあまり知らない。ターゲットとしてもっと若い世代

(小学生、中学生) に対して市内企業を知ってもらう機会を作っても良いのかもしれない。ジョイセブンで一般市民向けの工場見学をやっているがあまり盛況ではない。」

- 三輪 「小さい時期から刷り込むことは良いこと。都会に出た子にいかにか帰って来てもらうか。小さい子であれば楽しかった、ためになったという思い出をつくらせてもらう。見学の中に体験等を盛り込んでいく。岐阜市でも伝統工芸の分野で取り込んでいる。ただの説明では伝わらないので、作りこみが必要。情報発信についても同様で、どう発信するとどう響くのかを考えて行なうべき。日本の企業は自社の PR が苦手。自社の PR の研修もやった方が良い。通信販売では魅力を発信する手法がある。それを学ぶのは良いこと。各年代に響くワードがあるため、それぞれの人に見合った情報の発信を行なう。」

○委員の主な意見

- ・ 小学校の社会見学は愛知県等の都会の企業等の見学を行なうが、市内企業の見学も年に数回行なうことも大切ではないかと思う。
- ・ 商工分野だけではなく教育委員会との連携が必要。
- ・ 自分たちが小さい頃は地元の企業で働く人達を見学する機会があった。写生大会では自分たちで会社を選び、働く人の姿を描いた。今の教育のカリキュラムの中に取り込むというのは難しいかもしれないが、色々が分かり出す 3、4 年生の年代に対して行うことは効果があると思う。
- ・ 中学校ではインターンシップはある。
- ・ 昔は仕事を体験するというものであったが、今は仕事内容を伝える見学会のような感じに変わってきている。簡単な仕事と一緒にやってもらい普段見えない所を見てもらうようにしている。
- ・ 恵那市にはケーブルテレビもあるので、目的を持ってシナリオを書き、番組を作っていくことも有効な手段。企業はそれを 2 次利用として HP 等で使う。ケーブルテレビの HP 上にも市内企業の情報を発信していくことも良いし、BtoC の業態であればそこで物販もできるという仕組みをつくれれば、地域に限定せずに情報を発信できる。ケーブルテレビは地域の情報発信のため積極的に使っていた方が良い。文字情報として新聞等を使うことも考えられる。
- ・ 働く人たちの番組を作成し、学校の社会科の授業に活用していくことも考えられる。
- ・ 今は盆でも提灯を飾らなくなった。岐阜市では、なぜ盆に提灯を飾る風習が生まれたかを取りまとめてストーリーを作り動画を作った。小中学校には全て配布し、提灯を扱う小売店に配布した。財源は市と提灯組合。小さいときから、なぜ盆に提灯を飾るのかということ刷り込んでいく。家に帰れば子供が親に、何で家には盆提灯がないのと聞く、そうやって需要を掘り起こしていく。
- ・ 映像展開できると、子供を現場に連れて行く先生の手間が省けるため、有効な手段だと思ふ。

・市内の子供たちが市内企業に興味・関心を抱いてもらうことが大事。

○事務局 「製造業の魅力の発信については、働き始めて 5 年くらいの社員が、何をやっているのか、何にやりがいを感じているのかを発信することで、学生が仕事をイメージしやすいのではないかと考え、**工場男子・工場女子**という形で情報の発信を考えている。」

○三輪 「社長が言いたいことを社員に話させることが大切。ドキュメントではないため、それでないと魅力は伝わらない。キーワードを入れる。」

○事務局 「今までは人を育てて、その人が仕事をどんどんこなしていったのが、これからは仕事に人を当て込む形に変わりつつある。シルバーやパートの活用を前提として**作業工程の細分化を行なうのは現実問題として可能なのか。**」

○三輪 「それをやるには、**どういう作業にどういう能力が必要で、それを習得するには何年かかる等の行程解析**をする必要がある。ただ、これにはかなりの手間がかかる。そこを明確にすることにより人材の流動化に備えることになる。自社で長期的に活躍してくれる人のポジション、給与の成長パターンと、短期で切り替え可能なポストの給与の成長パターンが違う。職の制度か役割等級制度かの違いになる。その現場・職場に見合った体系にしていく仕掛けが必要だが、中小企業の大半の場合は社労士に丸投げで作った給与体系が多く存在しており、実態との乖離が見られる。これも先々見直さなければいけない時が来る。今後の展開としては、まずは**現状の魅力発信**を行い、先々の課題として**人事制度の見直し**を考えていく。そこに国県市などの支援制度を入れていく。」

○事務局 「委員の皆様から挙げていただいた現状と課題、外部的背景等から、事務局で解決の方向性をまとめた。これが工業部会施策体系の素案となる。
工業部会の目指すべき姿については、「企業の強みを磨き社員が輝く魅力溢れる選ばれる工業」とした。施策の方向性では 5 つの柱を設定した。5 つの柱については全産業同じもので設定している。5 つの柱には、それぞれアクションプランとして具体的な取り組みをまとめてある。
今日の議論で出てきた、**キャリア教育**の部分についてもアクションプランの中に入れていく。」

○三輪 「アクションプランは対象者別に作っていくこと。前段となる情報発信があり、体系的に作っていかないといけない。映像、文字情報を 2 次利用としての HP での閲覧等。人は他の地域との取り合い。仕組みがあると連れて来られる。基盤の強化の部分で**社内体制の見直し**も入れると良い。企業の経営合理化を図

るときには、会員同士のつながり等があるため会議所等への相談では出来ない。よろず支援拠点、そのしがらみがないため相談に乗れる。企業の経営が磐石になり、健全化するには第 3 者による見直しが必要なため、そこを支援するという策もある。」

○委員の主な意見

- ・国が補正予算で働き方改革についての事業を行う予定である。企業が人材を確保できない中で、**人手不足に対応するため企業体制の改善を図るものに対し助成金を出すこと、**専門家の派遣に対して補助を出すというようなもの。

○事務局 「施策については次回（12 月）にもう一度確認してもらおう。すぐに予算化は出来ないかもしれないが、ビジョンに乗っていないと予算化が出来ない。落ちているところがあれば、指摘してほしい。」

工業部会まとめ

テーマ「働きやすい環境づくり」

■ビジョン素案に対する意見

- ・人材確保のための研修は会議所・商工会では実施していない
- ・企業の魅力としてやりがいを伝えることが重要
- ・市民に対する企業見学などで公開できない企業情報を伝える
- ・恵那市が好きで残っている人のデータを取り、恵那市の魅力を再発見する
- ・見学の中に体験を盛り込み、子どもの頃から企業の魅力を刷り込む
- ・自社の PR 研修
- ・教育委員会と連携し、市内企業へ社会見学
- ・ケーブルテレビの有効活用
- ・作業工程の細分化による適材適所推進

■素案への反映

- ・短期的には現状の魅力発信、中長期的には人事制度の見直しを推進
- ・キャリア教育を盛り込む

3. 次回検討部会の開催について

○事務局 「次回は、平成 29 年 12 月 11 日（月）13：30 から恵那市役所会議棟大会議室で全体部会を開催します。」

4. 閉会